

流行ニュース：<リフトバレー熱、南アフリカ>

2010年4月27日現在、ドイツ保健当局は南アフリカに2010年3月17日から4月8日の滞在後に帰国した旅行者1名が、リフトバレー熱（RVF）と確認されたことを報告した。この患者は、3名の同伴者とともに東ケープ州と西ケープ州の海岸沿いの農村地方と動物保護区を訪れた。2010年4月7日に発熱、頭痛、発疹を含む症状を発症し、ほぼ同時に患者の旅行仲間でも報告された。ドイツ保健当局はこの症例で感染状況を調査中である。

2010年5月3日の段階で南アフリカの保健省はフリーステート州、東ケープ州、北ケープ州、西ケープ州、北西州の集団発生以降172例報告した（この内15例死亡）。RVF感染の家畜またはRVF発生農場と疫学的に関連があったが、感染経路が不明症例も多く、蚊の媒介も否定できない。

南アフリカ政府は、リスクのある集団に対して公衆衛生学的対策や症例の同定や報告、検査、症例管理、非感染地域での予防・管理、動物ワクチン接種の院内感染対策に対する医療従事者のガイドラインを実施した。

WHOは南アフリカへの渡航制限の勧告は行っていないが、動物の組織や血液との接触避け、蚊帳や殺虫剤を使用するなどの予防対策を推奨している。

今週の話題：<世界中の野生型ポリオウイルス伝播阻止への進歩、2009年>

世界ポリオ根絶計画が開始された1988年にはポリオは年に推定35万例発生していたが、1999年を最後に2型の野生型ポリオウイルス（WPV）は報告されていない。2005年までに4カ国（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）以外からWPV1・3の伝播は掃滅された。

2009年のWPVの症例は1606例で2008年の1651例と同程度で、WPV3は675例から1124例と67%増加、MPV1は976例から482例へ51%減少した。インドでは2009年の症例のほとんどが西部ウッタル・プラデシュや中央ビハールに限定され、アフガニスタンやパキスタンでは、紛争地域での活動制限のためにWPVの流行が続いている。ナイジェリアでは2008年の798例から2009年の388例へ51%減少し、2009年6月以降のWPV1の発生はほとんどない。2009年のポリオ非感染19カ国でWPVの輸入からの集団発生が起こり、アンゴラ、チャド、コンゴ民主共和国、スーダンの4カ国は、輸入後WPV伝播が12ヶ月以上持続した。

* 定期的な予防接種：

2008年に12ヶ月未満の子供への3価経口ポリオワクチン（OPV）・3回接種の接種率は推定83%である。地域別ではアメリカ92%、地中海東部84%、ヨーロッパ96%、東南アジア73%、西太平洋地域97%であった。2008年の3価ワクチン接種率はアフガニスタン85%、パキスタン81%、インド67%、ナイジェリアでは61%と推定される。しかし、インドのウッタル・プラデシュやビハールやアフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア北部では、OPV3接種率は国全体のレベルをはるかに下回った。

* 補足的な予防接種活動（SIA）：

OPVを使用した合計270回のSIAは40カ国で運営された。270回のSIAのうち85回はポリオ流行4カ国（インドが34、パキスタンが23、アフガニスタンが13、ナイジェリアが15）で行われ、136回はWPVが2009年（15カ国）またはそれ以前（5カ国）に再伝播した国で実施された。49回は2009年WPV非感染の16カ国で実施された。

* 急性弛緩性麻痺のサーベイランス：

ポリオ根絶の監視の基本となる急性弛緩性麻痺（AFP）に対するサーベイランスシステムは、15歳未満のAFPの全症例やポリオが疑われる麻痺性疾患の全症例を調査している。AFPサーベイランスの質はWHO活動指標で監視され、対象は（i）非ポリオの検出率が15歳以下の人口100万人当たり、1例以上である（ii）麻痺発症14日以内のAFP症例の80%以上から便検体の採取の2項目に該当するものである。2009年ではポリオ流行4カ国やWPVが拡大した19カ国が対象国家となった。

表1：急性弛緩性麻痺（AFP）のサーベイランスとポリオ症例数、2009年と2010年1-4月、WHO地域および国別（WER参照）

* 野生型ポリオウイルスの罹患率：

1606例の麻痺を伴うWPV症例は2009年に世界中で報告され、ポリオ流行4カ国で1256例（78%）、ポリオが報告されていなかった15カ国の207例（13%）は野生型ポリオの輸入に伴う症例である。そして、143例（9%）は再流行の4カ国で発生した。WPV1の症例は2008年の976例から2009年の482例まで減少したが、WPV3は2008年の675から2009年の1124まで増加した。ポリオ発生地域は2008年の496から2009年の481に減少した。

・インド

2008年は559例で、2009年は741例（WPV1が79、WPV3が661、mixが1）だった。主にウッタル・

プラデシュ（WPV1 が 33、WPV3 が 568、mix が 1）やビハール（WPV1 が 8、WPV3 が 14）の北部で発生した。ムンバイでは環境中から 2009 年 1 月に WPV1、2009 年 12 月には WPV3 が検出された。2008 年のムンバイの環境サーベイランスは WPV1 が 2 回、WPV3 陽性の 31 検体が検出された。2008—2009 年間で全て陽性の検体はビハールから発生した。

・アフガニスタンとパキスタン

アフガニスタンは 2008 年の 31 例と比較し、2009 年に WPV が 38 例（WPV1 が 15、WPV3 が 23）報告された。パキスタンは 2008 年の 117 例で、2009 年は 38 例（WPV1 が 60、WPV3 が 28、mix が 1）報告された。伝播は両国で以前発生した地域に限定された。管理や作戦の制限が続く北西部やバローチスタン州やシンド州で伝播が続いていた。

・ナイジェリア

ナイジェリアでは 2008 年の 798 例（WPV1 は 721、WPV3 は 76、mix は 1）から 2009 年の 388 例（WPV1 は 75、WPV3 は 313）まで WPV の症例数は減少した。罹患率が以前高かったナイジェリア北部のいくつかの州で市町村の受け入れや SIA の質の指標が改善し、2009 年後半には北部で WPV1 が減少した。しかし、2009 年の全体のサーベイランスのモニタリングでは 6—35 ヶ月の子供の 3 回未満 OPV の接種は 50%以上で、高い罹患率の北部の州では非接種が 20%以上を示した。

地図 1：世界の野生型ポリオウイルス症例（n=1606）の地理的分布、2009 年



* WPV の輸入：

2009 年、アンゴラやチャド、コンゴ民主共和国、スーダンで 2008 年またはそれ以前に発生した輸入による WPV の再流行は続いている。2008 年 8 月から 2009 年 12 月までのナイジェリア特有の WPV は西アフリカの 10 カ国や中央アフリカの 2 カ国を通して新たに持ち込まれ、2009 年に 178 例発生した。2009 年にチャドやコンゴ民主共和国の両国からの輸入によって中央アフリカ共和国で WPV3 の伝播が起こり、ケニヤやウガンダは南スーダンからの WPV1 の輸入が原因だった。ブルンジ共和国では検出された WPV1 の 2 症例が 2008 年にコンゴ民主共和国のものと遺伝的連鎖を持っていた。

* ワクチン由来のポリオウイルス：

2009 年、循環ワクチン由来ポリオウイルス 175 例は 6 カ国で AFP 症例から検出され、北ナイジェリア 153 例、ギニア 1 例、コンゴ民主共和国 4 例、エチオピア 2 例、ソマリア 4 例、インド 11 例が含まれる。

* 編集ノート：

2009 年に報告された WPV1606 例は、2005 年から毎年報告されていた範囲内だった。2006 年から SIAs での mOPV1 の使用により、2007 年 (321) から 2009 年 (482) まで WPV1 は減少した。しかし、WPV3 は増加していたことから現在ほとんどの SIA で bOPV が幅広く使用されるようになった。2009 年、何カ

国かで再発生が認められたため WPV 伝播阻止の障害の独立した評価が行われ、改善点が強調された。2010 年から 2012 年の世界ポリオ撲滅作戦の戦略的計画は現在実施されており、作戦は新たな段階が組み込まれた。

地方指導者の責務の改善や SIA の質のモニタリングの信頼性の向上、定期予防接種システムの改善・強化に対する取り組みが始まっている。

2009 年 9 月からインドの 2 つの流行地域では WPV1 の症例は報告されておらず 2009 年に新たに発生したアフリカの国 15 国のうち、11 カ国で WPV は報告されていない。ナイジェリアでは WPV3 は 3 例、WPV1 は 2 例のみの報告されている。2010 年の 5 月の時点で、世界で 115 例 WPV が報告されているが、2009 年の同時期の 396 例と比較して 71% の減少で大部分はナイジェリアでの減少によるで、子供へのワクチン接種の改善がその国での伝播を防ぐことを証明した。世界的に成功するポリオ根絶の努力のために、2010 から 2012 年の間に慎重に指標をモニターし、必要に応じて活動を修正することが重要だ。

(衣川菜美、白川卓、塩谷英之)